

第31回 レーザ機器取扱技術者試験を実施

当協会では、第31回レーザ機器取扱技術者試験を2022年6月30日に東京・芝公園の機械振興会館にて実施した。

レーザ応用機器の普及に伴いレーザ機器の製造、調整、使用等に携わる人が増え、また、レーザ機器の適用の拡大に伴って一般の人にも危険をおよぼすような使用分野も出現してきている。これらの動きを受け、当協会はレーザ機器取扱安全に関する十分な知識を普及・啓発していく事業（例えば「レーザ安全スクール」の開催）を行うとともに、1990年度からレーザ機器取扱者に対する試験制度を発足させた。

この試験の趣旨は、レーザ機器の取扱いに起因する危険および障害を防止するために、レーザ機器の取扱者、安全管理者および安全技術者に必要とされる知識水準を審査し、試験合格者を当協会に登録することで、レーザ機器取扱いの安全化を促進するとともに、レーザをはじめとする光産業の健全な発展を支援することにある。

第30回の試験を2019年12月に実施して以来、新型コロナウイルス感染拡大の影響により開催を見合わせてきたことから、今回は約2年半ぶりの開催となった。

依然として新型コロナウイルス感染再拡大の懸念が燃る中での開催ではあったが、全国からの受験者106名（前回153名）が集まり、3会場で午前・午後それぞれ2時間ずつの試験を行った。受験者の内訳は、レーザに関する総合知識およびレーザ光の危険性と安全法規の知識を持っているかを試験するレーザ安全管理の「第1種選択1」は2名、同じくレーザ安全技術の「第1種選択2」は4名の受験者に留まった。一方で、レーザ安全の基礎的知識を備えているかを判定する「第2種」は100名が受験し、市場でレーザ機器の利用場面拡大が続いていることを感じさせた。

合否に関しては今後、レーザ機器取扱技術者試験委員会の厳正な採点、審議を経て、2022年9月上旬に合格者発表を行う予定である。

